

【決算ハイライト】

- ① 2022 年上期決算 (カッコ内は 2021 年上期比)
  - ・売上高=27,133 百万円(+12.1%)、経常利益=2,804 百万円(+13.1%)  
→上期の過去最高の売上高・利益を更新。
- ② 2022 年度見通し (カッコ内は 2021 年度比)
  - ・売上高=55,000 百万円(+9.1%)、経常利益=5,700 百万円(+1.0%)  
→売上高は当初見通しを上方修正(+1,000 百万円)、経常利益とともに過去最高を更新の見通し。
- ③ 配当
  - ・当社創業以来、初めての中間配当 40 円/株を実施。
  - ・年間予想はこれまでの配当性向 30%目途を引き上げ 35%とし、85 円/株・年を予想。  
(40 円(中間)+45 円(期末) 計 85 円 →当初見通しどおり)
- ④ トピックス
  - ・ソリューション事業 お客様導入事例  
名古屋鉄道(株)様向けに自社ブランド 2 商品の組み合わせによる工事・購買在庫管理 sys を導入  
→わずか 10 か月での稼働開始を実現するなど、お客様の SAP リフレッシュを加速化するモデル  
ケースとして、更なる拡販に注力。
  - ・自社ブランド商品 (メルクリウス) のクラウド版 販売好調  
→食品業界向け商品情報・配合・食品法規統合管理パッケージであるメルクリウスのクラウド版  
が本格販売開始から約 1 年半で利用社数が倍増。
  - ・DX 人材の採用強化 (JFE スチールと共同での新卒採用活動)  
→JFE スチールの製鉄現場に関する知見と当社の IT 技術に関する知見を融合したプレゼンテー  
ションが学生の関心を集める。採用面だけでなく、JFE スチールと当社の DX に関連した相互  
理解の深まりにも寄与。

【質疑応答要旨】

Q1 : (収益見通しは通期のみで、) 上期の計画は無いが、製鉄所システムリフレッシュは順調なのか？

A1 : ほぼ予定通り進捗している。

Q2 : 通期では、売上増・利益据置きで利益率が低下する見通しということで弱気に見えるが？

A2 : 昨年度下期は、高採算のライセンス収入があるなど利益率が高かったが、本年度は上期への高採算  
案件の前倒しに加え、案件構成差、研究開発費用等のコスト増要因も織り込んでいる。この結果、  
今年度下期は、前年度比で若干の減益を予想している。

Q3：現在、スタンダード市場に上場しているが、プライムに移行する予定はあるのか？

また、売上の50%がJFE向けだが、親会社に取り込まれることはあるのか？

A3：当社には、株式の流動比率などプライムの要件を一部、満たしていない部分があり、今のままでは移行できない。将来、要件を満たすことができれば、プライム市場に移行することを否定しない。また、当社の現在の売上高は約半分がJFE以外の一般顧客向けであり、JFEグループの連結業績拡大に貢献している。現在のビジネス形態において、上場を維持することが当社にとっては望ましいと考えている。

Q4：メルクリウスクラウドの販売が好調ということだが、クラウド版の顧客の特徴などはあるのか？

A4：従来型のオンプレミス版は、食品業界の中でも大手企業中心の顧客構成だが、クラウド版は中堅・中小の食品業界のお客様が中心となっている。

以上